

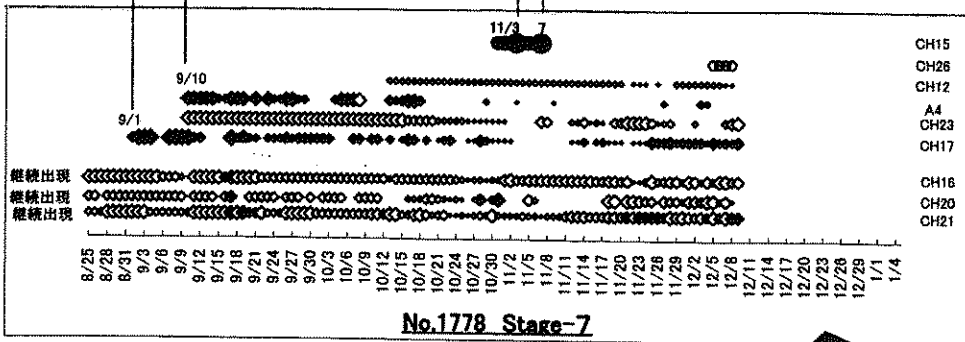
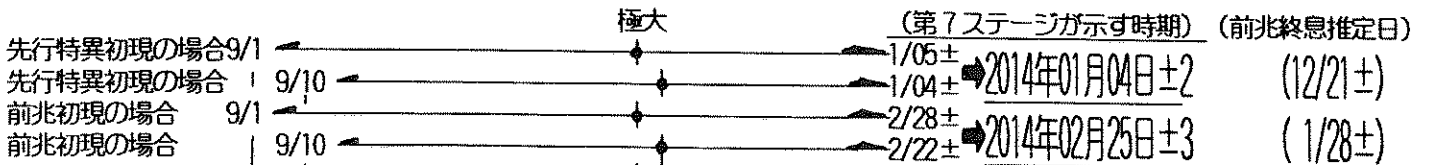
原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏M7.9 ± 0.5 靦い地殻地震の可能性推定前兆 続報

2008年07月から5年以上前兆継続の過去例皆無の特殊前兆続報。本年11月に入ってから出現しだした秋田観測点及び高知観測点の複数並びにハヶ岳のCH12の前兆は、No.1778前兆関連ではなく、No.2317B 関連のNo.2443前兆（別地震の前兆）である認識を11月中に実験観測情報で報告し、No.1778前兆から7より削除。その結果、現在のNo.1778前兆の第7ステップ前兆の出現状況は下図のとおりです。9/1と9/10の前兆継続出現開始を先行特異初現とした場合は、1月4日±が推定計算できますが、仮に前兆初現である場合はT_{fap}:T_{map}=20:13 経験則より、2月25日±が推定計算できます。各々の静穏期突入時期→前兆終息時期は下右端の各時期が計算できます。本年12月23日時点で前兆継続の場合は、2月25日±の可能性となる場合と、第8ステップへ移行する場合の2種が考えられ、いずれの場合も1月初旬発生

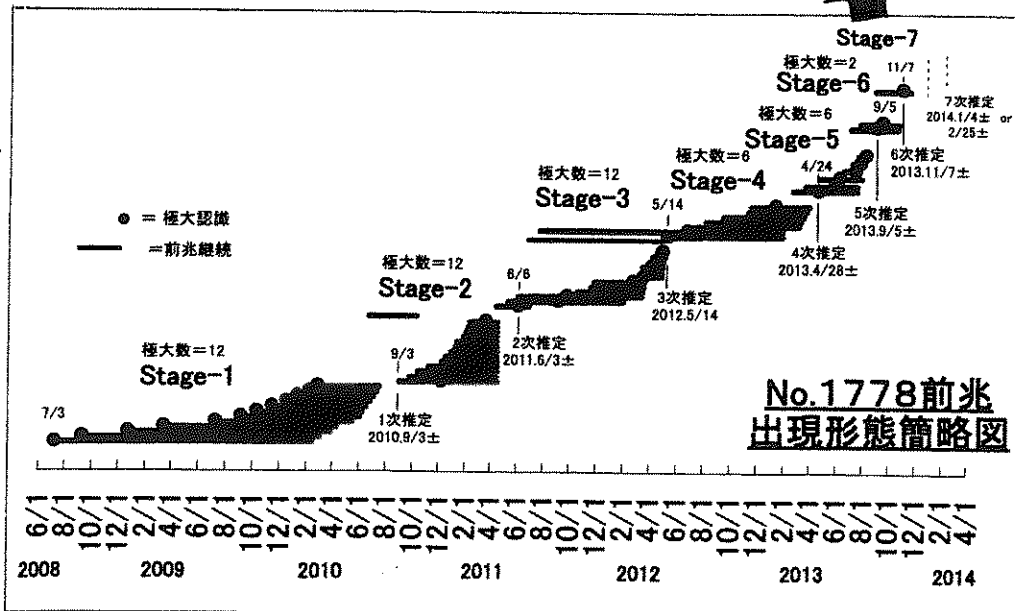
可能性は否定できます。（12月下旬、続報予定）
12月23日時点で前兆が継続していた場合、前述の2種の可能性が示唆されますが、12月21日±時点での前兆変化によって、2月25日±を示すのか、第8ステップへ移行するののかの判別ができる可能性があります。12月23日時点で、継続していた前兆が全て終息した場合には、01月初旬時期発生の可能性となります。下図全体図を見ても、各ステップの前兆極大数並びに前兆期間の減少傾向が認められますが、現在の第7ステップが最終ステップとなるのか、次の第8ステップへ移行するのかは現段階では判りません。
①01月初旬発生の可能性 左記の4種類の可能性が現状考えられますが、今後の観測で決定できる可能性があります。
②02月下旬発生の可能性
③01月初旬～第8ステップへ移行の可能性
④02月下旬～第8ステップへ移行の可能性



左図：No.1778の第7ステップ

9/1からのCH17の糸状特異継続出現の初現、9/10からの秋田観測点のA4の特異継続出現初現を、先行特異初現と認識するか、前兆初現と認識するかで、示される時期が異なる。先行特異の場合は極大後は静穏化傾向となる。A4は静穏化しているがCH17は再び継続出現しているため、先行特異と断定は困難。最近、CH26にて特異状態出現開始。今後の変化を観測し要検討。

左図：No.1778全体像



2008年07月から現在まで7段階のステップ状の前兆群出現。各ステップ内に複数極大が認められる過去例の無い特殊形態です。各ステップ内の極大数減少傾向、各ステップの前兆期間の短縮傾向が認められる。